

幼児の身體教育に對する考察

東京女子高等師範學校助教 宮 田 覺 造

我國の國民に對する身體教育として最も研究を遂げ徹底的に勵行を圖らなければならぬ時機は、幼児期と、青年期とである。青年期の教育はしばらくおき幼児期の身體教育に就いて二三の卑見を述べ實際家の參考の資料にしたいと考ふるのである。

(一) 幼児期の運動

吾々の生活に對する環境は文化の進むにつれて益々健康生活に對する諸要素から益々遠ざけられて行くものである。殊に幼児の生活に對しては、新鮮なる空氣、輝ける太陽の中で「自由に運動したい」といふ彼等幼児の願望に對しては到底満足させる事が出来なくなり、殊に都會生活に於ける幼児の生活實狀は益々峻烈であつて、神經は強度刺激され運動に制限され、日光と空氣と自然的環境とからは益々遠ざけられ幼児の生命は奪はれんとしてゐるのである。

この奪はれんとした生活環境を打破し、求めつゝある願望に對してこれを與へ、幼児の魂に對して眞正の發育發達を遂げしむることが眞の幼児教育の本質ではないかと思ふるのである。

眞に心から求めんとする願望は何であらうか、言ふまでもない自然的な環境の中に自發的な運動を喜んで求め、好んで動くといふこゝが幼児の全生活であり全生命である。伸び行く魂が眞にほからかさを感ずるのは此の生活であり、この時であると思ふ。

自然的な自發的な運動は遊戯であつて、衝動が體的の活動となつての表れは遊戯の生活である。従つてこの遊戯の生活には計畫もなければ、目的も持たぬものであつて、衝動的な體的活動それ自身に深い興味と關心を持つものである。自然的に自由に遊戯するこゝに依つて身體の機能及

び精神活動竝に道德觀念の發達を遂ぐるものである。

幼兒の生活内容といふものは殆んどこの遊戯の生活であつて、指導者もその眞剣なる考察を遂げなければならぬところはこの生活に對する考究で、天性のまゝに活動せんとする生活内容を如何に指導し訓練して行くかといふことにあるのである。

幼兒の想像は實に強烈なるものであつて、衝動もなつて表現され直に動作もなつて表出され夢想の世界に適合するものである。毎日の身邊にある机や椅子も山も谷もなり、人となり動物もなるものである。戸棚に飾つた人形も毎日遊び戯るゝ友達も變り生命ある人間もなつて談笑するゝものである。又築山の木の根も大蛇もなり、動物園のラケダも變り、彼等のもつところの思想を具體的に表現しやうとする欲求は極めて強大なるもので、あらゆる幼兒の對象なるものはその生活の中に表れ、日ごとに擴張され伸展されたる世界は生活活動の内容を形成するものである。

かく想像による刺戟が身體的活動、精神的活動もなつて、自己の思想を具體化せんとする欲求も合流し、經驗を豊か

にし、觀察を鋭くし、自己の世界を擴大することが出来るものである。

かくして進展するところの幼兒の遊戯生活は、細心の注意のみに正しい方向に發展させ將來完全なる人としての教育に對して貢獻させるやう仕向けなければならぬのである。

現在我國に行はれてゐるところの幼兒の運動生活、遊戯の生活といふものは、はたして此の點に着意されてゐるものであらうか、學校生活、園内生活に對する全體生活に就いては、幼兒の眞生命を見出すべく着想されたとしても、身體教育としての運動生活に就いては、組織系統なる科學的基礎の上に立脚された點が乏しいのではないかと考ふるのである。

身體教育としての直接目的たる幼兒の運動は正常なる發達を遂げしむるために、運動機能、生活機能、神經機能を充分に動かせしむるものでなければならぬことは、第一義におかねばならぬものである。情操の陶冶、感情の洗練、動作の優差も亦必要な事ではあるけれども、生物的の立場

から見たところの生活力の旺盛な、活力の富んだ力の強い
こいふ事さ、よく意志の命するまゝに動くここの出来得て、
四肢五體を思ふやうに動かすこことが出来て活動目的を達成
するこことが出来得るこいふが發育の旺盛なるこの時機の實
に重要なこことである。

従つて幼兒の身體教育として最も重要性を持つ點は、身
體の機能の完全さこいふこことになるのであつて、遍智的教育
の餘弊を受けた主情主義の運動を通しての身體教育に對し
ては根本的改善を施し理想のたて直しをせねばならぬここ
である。

(二) 幼兒教育に望む今後の運動

幼稚園の運動さいへば、直に唱歌遊戯、表出遊戯、童心
遊戯、表情遊戯、動作遊戯、律動遊戯さいふて名稱の相違
こそあれ、組織さるゝ系列さいふものは殆んど同一である。
詩歌を通しての感情の表現動作であるが、はたして童心に
ふれた、遊戯生活としての價値を見出すこことが出来得るで
あらうか、近來種々雑多な創作物を見せつけられるので益
疑惑を感じ身體教育としての價値を發見するこことが困難な

實狀におかれてゐるのである。

子供のために造られ歌曲であつても、幼兒の歌ふこまの
感情さ大人の歌ふた心情さは異なるもので、子供の心さな
つて振附けた表現動作も大人の主觀から想像して生んだも
のであるから必ずしも悉く合致するこいふべきものでもな
い。かくして唱ひかつ遊ぶこころの遊戯が幼兒の身體教育
さして全部の如く考へらるゝこことは大なる誤解であつて、
幼兒の遊戯生活さいふものは、決してかくの如き單純なも
のではない、唱歌遊戯の無價値を論ずるものではないが、
遊戯室での指導者のついた遊戯としての生活よりは指導者
のつかない廊下で八釜しい程走り廻る自然的な遊戯や、教
室内の悪戯こまや、庭園内の築山や砂場の中での子供同志
の遊戯が、人間教育の完成に對して大なる價値を持ち來ら
すのではないかこ考ふるのである。

形式的技巧的な動作や、物真似的な手振り、身振りは、
幼兒の心にうつす事が少ないものであつて、兒童の近い經
験に對して結合したこころの表現動作さいふものには最も
興味も多く満足を與ふるものである。しかもこれらの動作

が活動的で、運動量が充分であるときには、活動欲、運動欲を充たし喜んで求め楽しんで遊ぶものである。

今後の幼児身體教育に望むところはものは唱歌遊戯萬能をすて、幼児の遊戯衝動中に眞義を見出し、彼等の近い經

幼児と日光浴

東京大森めぐみ幼稚園長 岩村清四郎

の本体になり過ぎてはるはしますまいか。

日光浴

日光浴を云ふ事を、素肌を太陽に曝す。云ふ意味丈けに取るに幼稚園からは相當縁の遠いものになりませうが、そうでなく、幼児を太陽に親しませるに云ふ意味なら之れ位易い又大切な事はありますまい。

今日の幼稚園——ご大まかに呼びかけたら云ひ過ぎになるかも知れませんが、少く共都會の幼稚園は「幼児と日光」を云ふ事にされ丈け注意を拂つてゐるか私は聞いて見たいのです。初代幼稚園に於てフレールは、雨の日を除いては殆どの時間を戸外で過したことは忘れられてはしまいかも氣遣ふものであります。餘りにお仕事が、遊戯が保育

験に立脚し、季節的な運動と生活環境を考へ、組織的に考案されたる運動を系統的に配合し、極めて自然にしかも自由に彼等の遊戯生活の中に結合され、身體機能の合理的な發達發育を遂げしむるこそが、幼児教育の眞諦である。

私はさうかして幼児の皮膚を空氣と日光に曝したいと思ひまして色々な工夫をして見ました。其第一は日光浴であります。南向きの庭に三間三間のコンクリートの廣場を造りました。北の方は園舎に遮られて北風は來ません。西側には八尺高さの風切りを立てました。南と東丈けがあいてゐるのです。コンクリの上に相當厚いゴザをしいて用意します。午前十一時が一番よいのですけれ共、保育の最も大切な時間なので、其時間を取り切れません。遂にお食後